

経営会議の内容

件 名	次期大和市総合計画基本構想及び前期基本計画（素案）について
所 管 部	政策部
日時・場所	平成30年5月29日（火）10：45 ～ 11：30 政策会議室
出 席 者	市長、副市長、教育長、病院長、市長室長、政策部長、総務部長、市民経済部長、環境農政部長、健康福祉部長、こども部長、文化スポーツ部長、街づくり計画部長、都市施設部長、病院事務局長、消防長、教育部長、議会事務局長、総合政策課長
提出理由	次期総合計画基本構想及び前期基本計画を策定するにあたり、素案の内容について了承を得るため
会議経過	<p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合計画審議会からどのような意見が出されたか。また、その意見はどのように素案に反映したのか。 （所管部）審議会からは、健康を基軸とした計画になっていることを評価していただいた。意見としては、「人・まち・社会の健康が互いに連携していくことが重要」や、「都市の持続可能性を追求することが大切」等があり、将来都市像の文章などに反映している。 ・議決はどうするのか。 （所管部）平成23年に地方自治法が改正され、法的な議決義務が無くなったが、市の最上位計画としての性質を踏まえ、基本構想案を12月議会に提出する予定である。 ・時代の流れが速い中、消費税10%などに伴って、今後新たな事業の展開が考えられるが、今回策定する計画には、どの時点までの内容を反映することが可能か。 （所管部）基本的には、策定作業を行う11月まで修正できるが、細かい事業や取り組みについては、毎年策定を行う実施計画への記載が相応しいと考える。 ・将来人口の24万人は、どの様に推計したのか。 （所管部）コーホート要因法を用いた推計を基本としている。そのうえで、大規模マンションによる人口増を反映させるため、計画期間中に建設が予定されているマンションの戸数のうち、過去5年間に建設されたマンションの1年あたりの平均戸数を上回った部分について、上乘せした内容となっている。 ・土地の利用に関し、今後、都市計画マスタープランを策定していくことになるが、総合計画の内容をベースに国の取り組みなどを反映させていく必要がある。 ・個別目標8-1について、第8次総合計画からめざす成果などが変更されていないが、どの様な審議・検討の過程を経ているのか。 （所管部）これまで、総務担当課長会議の中で議論してきたところであるが、これは後ろ向きな考え方によるものではなく、現状の取組を着実に継続していきたいとの考えから変更していないものである。また、担当部で男女共同参画等に係るアクションプランを策定しているところであり、そうした個別の計画の中で新しい要素を取り入れていく必要があると考えている。 ・この10年で、ヘイトスピーチやハラスメント、LGBTなどがメディアで取り上げられるようになっているほか、女性の就労率が上昇するなど、男女共同参画に関する社会状況が大きく変化している。社会の流れに自治体は敏感であるべきだと

考えるので、そうした表現を加えられるよう検討していただきたい。

(所管部) 社会状況を踏まえた表現は、基本計画の現状と課題において整理しているが、用語の選定について引き続き検討していきたい。

- 3つの健康の連携を深め、成熟させていくとのことだが、これを具現化するための仕組みとしてどのようなものを想定しているのか。

(所管部) 元気な高齢者を増やしていく施策は、本人の健康はもとより、地域の活力の維持や医療費の負担減にもつながると考えられる。また、コミュニティバスの運行は、移動しやすいまちの実現のみならず、CO2の削減に寄与するなど、環境施策としての効果も期待される。このような施策の連携について、例えば計画書にマトリクスで示すことなどにより、職員が部門の垣根を越えて3つの健康の連携を意識し、広い視点で仕事に取り組むことができる。総合計画審議会への出席も含め、施策評価等においても、各部かいの連携が進めば、効果はさらに高まると考えている。

- 元号の改正が予定されており、次期総合計画に新たな元号は間に合わないと考えているが、計画書の中ではどのような記載となるのか。

(所管部) 11月頃に計画書の完成を予定しているので、それまでに新たな元号が発表されていけば、反映していく必要があると考えている。状況を見ながら対応していきたい。

- 基本構想と前期基本計画の人口について、年次が異なるにも関わらず、同じ24万人となっており分かりにくい。

(所管部) 過去の総合計画に倣い、千人単位の四捨五入で表記していることから、分かりづらい部分があるかもしれない。今後作成していく説明資料等で丁寧に対応していきたい。

- 市立病院における地域医療の課題としては、退院後の患者のサポートが挙げられる。高齢のため通院が難しい方や自宅の掃除が必要な方などが、スムーズに日常生活に戻れるよう、総合計画の中で、地域包括ケアシステムや自治会ボランティアの活用による支援制度の確立を図っていただきたい。

- 健康創造都市から健康都市へ、成熟を目指すという内容は良くできている。次期計画は基本的に第8次総合計画からの継続的な内容であるとのことだが、第8次総合計画と比べ、どこが新しい内容で、どこが重要なポイントとなっているのか。

(所管部) これからさらに高齢化が進展していく社会の動向などを踏まえると、健康の持つ価値がさらに高まっていくと考えられることから、いかに健康な高齢の方を増やしていくかを重要な視点として、人の健康の基本目標を細分化したところである。また、今後の社会の動きとして、AIなどの科学技術の進歩が挙げられるが、このような予測の難しい時代にあっても、行政としてスピーディーに、きめ細やかに対応していく意思表示を計画の序論に記載していく。

- 序論の中で踏み込んだ表現をすることで、重要なポイントがわかるよう、策定していただきたい。

(所管部) 第8次総合計画を踏まえて策定する計画となるが、時代の潮流が大きく変化すると考えられるこれからの10年に、この計画がどこまで対応できるかしっかりと精査し、市民や議会に対し説明を行っていきたい。

- 序論等は今後詰めていくとのことだが、計画の内容については総務担当課長会議や審議会、市民討議会を経て策定されており、社会情勢等に配慮した内容になっていると思う。計画の完成に向けては、現在、本市が目指している方向や施策が明記されているか、また、今後の施策の展開を制約する表現となっていないか、政策部だけでなく各担当部の視点でも見直してほしい。

- これまでの総合計画と違い、人口減少が始まるタイミングで、過渡期を迎える計画であることから、人口減少に耐えうる街づくりをどのようにしていくのが重

	<p>要である。また、これまで本市では、厚木基地に関わる交付金等を活用して公共施設の建設や維持補修を行ってきたが、今後、補助金の減額なども考えられるため、動向を注視していく必要がある。さらに、人口減少時代における学校などのハード整備をどのように行っていくかなど、様々な課題があり難しい10年になると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の総合計画の期間は、市制始まって以来増加を続けてきた人口が減少を始める分岐点を迎えることから、大和市にとって一番大きな変わり目の時代と言える。また、AIの進化への対応、少子化による学校の統廃合、高齢化に伴う認知症の問題も出てくる。さらに、高年齢になると、人は物を買わなくなるため、内需を支えている団塊の世代が75歳を超えると、経済にも大きな影響が出る。海外でも国家主義や民族主義が進めば、自国の産業を守るために貿易が減少し、さらに厳しい状況になるかもしれない。そんな時代に向かっていくタイミングで、これからの大和市の方向性を示すことになるため、非常に重要な計画となることを意識していただきたい。
<p>会議結果</p>	<p>案のとおり、進めていく。</p>